（様式1）

令和８年度　学力向上指導改善プラン

学校教育目標	夢や希望をもち、目標に向かってたくましく生きる生徒の育成

目指す子どもの姿	・真理を探究し、自ら意欲的に学ぶ生徒 ・道徳性を身につけ、社会的規範となる善い行いを心がけ、自分や他人を大切にし、共に生きる生徒 ・美徳を意識し、正しく判断し、粘り強く行動する生徒
変容を目指す資質・能力	a 知識及び技能　b 思考力、判断力、表現力　c 学びに向かう力、人間性等　d 情報活用能力 e 課題解決能力　f 学び続ける力　gコミュニケーション能力

三田市立富士中学校
学校長　奥雅喜
研究主体【研究推進（学力向上）委員会】

前年度			継続性	4月			2～3月		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 （前年度の成果と次年度に向けた課題等）	評価		学力向上に向けた重点的な目標 （変容を目指す資質・能力）	成果となる目標 （指標となる数値等）	具体的な行動目標 （成果目標達成のための具体的な手立て等）	年度末評価 教員点検	（今年度の成果と来年度に向けた課題等）	評価
・特別支援教育の視点を活かした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（a・b・c・e・g）	○全校生徒を対象とした「授業評価アンケート」を年に2回実施し、そこで得られた回答をもとに、「振り返りの充実」などの授業改善に全教職員で取り組んだ。その結果、成果となる目標数値を達成することができた。	A		主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業力向上・改善に努める。（a,b,c）	・「質問調査」において、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の問いにおける肯定評価が全国平均を上回る。 ・「質問調査」において、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」の問いにおける肯定評価が全国平均を上回る。 ・学校評価アンケートにおいて、「授業が分かりやすい」という問いにおける肯定評価が90%を上回る。→肯定的でなかった生徒へのアプローチを行う。	・互見授業期間を設定し、教師間での意見交流や校内研修を実施する。 ・毎回の授業のなかで「めあて」を確認する場と、それに対する「振り返り」を行う場を設定する。 ・生徒対象に授業アンケートを実施し、教員の授業改善に活かす。（学期末に実施）			
・ICTを活用した授業の推進（b・d・e）	○互見授業期間に、ICTを活用した授業を見学し合うことで、教員のICTを活用した授業改善に取り組む意欲が高まった。 ◆情報を収集・整理することに対して、苦手意識がある生徒が多いことから、図や表、思考ツールを使って情報をまとめる学習の機会を増やす必要がある。	A		学習習慣の確立（c,e,f）	・「質問調査」において、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）」の問いにおいて、1時間以上の回答が全国平均を上回る。	・異学年交流の場で、自身の家庭学習について意見を交流する。3年生は1・2年生に家庭学習で大切になることを伝授する。 ・生徒会が中心となって、「家庭学習の手引き」を作成する。また、保護者向けの「家庭学習の手引き」も作成し、家庭の理解を促す。 ・毎朝10分間、朝学習の時間を確保する（5教科）。			
・家庭学習の充実（a・c・f）	○年度の初めに「家庭学習の手引き」を配布し、各教科における学習のポイントを明確にすることによって、成果となる目標数値を達成することができた。 ◆ドリルパークの活用が朝学習に限られたため、長期休暇などにおける家庭学習での活用を推進する必要がある。	B		指導と評価の一体化（e,f）	・目標・指導・評価の整合性を確保して児童生徒の「資質・能力」を確実に育成する。 ・評価を「成績付け」のためだけでなく、教員が自らの指導を振り返り、授業の計画・実施・改善に活かす。 ・学習状況を把握し、必要に応じた個別指導や支援を行うことで、全ての児童生徒の確実な成長を目指す。	・教員が、朝学習の取り組み状況を確認する。（生徒にさせっぱなしにしない） ・各教科で小テストや単元テストを定期的に実施することで生徒のつまづきを把握し、授業改善に活かす。			
・基礎学力の定着（a・c）	○「ひょうごがんばりタイム」を実施し、数学の基礎基本や継続的な学習習慣を身に着けさせることができた。 ◆正答率に関する目標数値は達成できたが、「教員が分かるまで教えてくれる」という質問に関しては、目標数値に到達することができなかった。	B		読書活動の充実（b,g）	・学校評価アンケートにおいて、「生徒は読書をよくしている」という問いにおける肯定評価の割合が半数を上回る。 ・図書委員会が中心となって読書活動の啓発を行い、図書室の利用者数が前年度比で1．5倍増加する。	・月始めの5日間は朝読書を行い、読書習慣を定着させる。 ・図書委員会と連携し、読書活動の啓発を行う。 ・図書委員会と連携し、学級文庫を設置する。 ・総合をはじめとする各教科での調べ学習で図書館を活用し、学習センターとしての活用を図る。			
・読書活動の充実（c・f）	○図書委員会が中心となって、図書便りの発行やポスターの作成など、読書活動の推進を行った。 ◆様々な取り組みを実施するも、生徒の読書習慣の十分な形成にはつながらず、成果となる目標数値は達成することができなかった。	C		研修の強化（c,d,f,g）	・様々な分野における研修を実施し、教員の資質向上を目指す。	今年度の研修予定 ・校区内幼小中合同研修会 ・道徳人権研修 ・生徒指導研修 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて ・教科指導研修（指導と評価の一体化）			
・学力向上に向けた小・中連携の充実（a・b）	○各学期に一度、中学校区で授業参観や教員同士の交流会を開催し、各校の研究推進の取り組みを共有することで、成果や課題を明確にすることができた。 ◆小中一貫教育の推進に向け、カリキュラムマネジメントに関する研修の機会を持つ必要がある。	A							

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果
（1～5の5段階評価）の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成　B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分　D・・・ほとんど達成できず